

MEDIA RELEASE • COMMUNIQUE AUX MEDIAS • MEDIENMITTEILUNG

2020年8月27日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

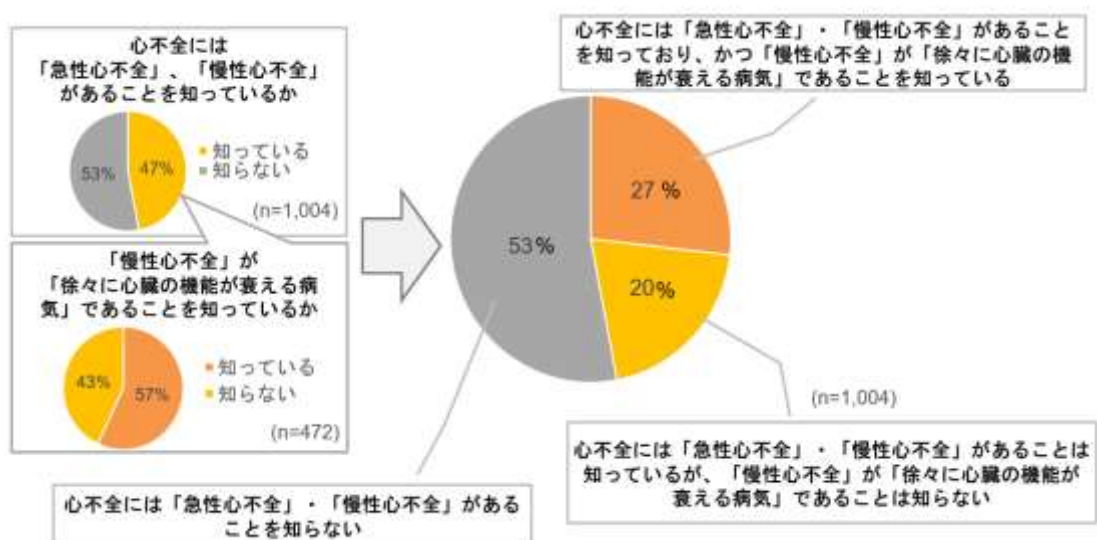
**日本人の心不全に関する意識調査を実施
 ～心不全を正確に理解している人は約4人に1人～**

ノバルティス ファーマ株式会社（代表取締役社長：網場 一成、以下「ノバルティス ファーマ」）は、2020年5月、全国の成人1,004名（男性522名、女性482名）を対象に、心不全に関する意識調査をオンラインで行いましたので、お知らせします。

本調査は、高齢化の進展に伴い患者さんが増加している「心不全」について、一般生活者の認知状況や意識の実態について把握することを目的に実施しました。

心不全には「急性心不全」や「慢性心不全」があるということを認識している人は全体の半数にも満たない47%、また認識していても「徐々に心臓の機能が衰えていく病気である」という慢性心不全の病態についてまで理解できている人はそのなかの57%のみでした。結果として、心不全について正確に理解している人は、全体の27%、約4人に1人にしか過ぎないということが明らかになりました。

心不全について正確に理解している人は約4人に1人（27%）



また心不全は、高齢化が進む日本において、毎年約1万人ずつ患者数が増加し、2020年には120万人、2030年には130万人になると推計されています¹。しかしながら今回の調査で、一般生活者の「心不全」への関心は9%と、「がん（悪性新生物）」の43%に比べて約5分の1と低く、また心疾患の中でも特に低いことから、

心不全という病気の認知率の高さに反し、「心不全」を自分事として捉えている人が少ないことが示唆されました。

さらに一般生活者の中で「息切れ」「むくみ」といった心不全の初期症状で受診を検討する人は少なく、早期にBNP濃度測定*で発見できることを知っている人は3%に留まりました。一方で約8割の患者さんはこうした検査があることを知っていれば受けたいということがわかりました。

*BNPとは、心臓を守るため心臓（特に心室）から分泌されるホルモン。心臓の機能が低下して心臓への負担が大きいほど多く分泌され数値が高くなります。<http://www.asas.or.jp/jhfs/pdf/BNPQ&A.pdf>

今回の調査結果から、ノバルティス ファーマは、心不全の正しい認知向上はもとより、超高齢社会を迎えた日本の社会課題である心不全治療において、「早期発見」「早期治療」の大切さにつながる正しい情報を伝えていくことで、患者さんやご家族の、より充実した健やかな毎日に貢献していきたいと考えています。

■調査概要

調査対象 : 日本の成人 1,004 人
調査方法 : インターネット調査
調査期間 : 2020年5月8日～11日
調査対象 : 20代～80代の男女

調査の主な結果は以下の通りです。（詳細は参考資料をご参照ください）

- ・自分や自分の家族がかかるかもしれないと思う病気は、「がん（悪性新生物）」が43%と最も多く、次いで「高血圧」31%、「糖尿病」25%と続いた。また心疾患では「心筋梗塞」が17%、「不整脈」が11%であり、「心不全」は9%であった。
- ・心臓に関わる病気のうち、聞いたことがある名称として「心不全」が76%と最も高く、次いで「不整脈」が75%「心筋梗塞」が73%とほぼ同程度であった。
- ・心不全に「急性心不全」や「慢性心不全」があるということを認識している人は47%と半数以下であった。
- ・「慢性心不全」という言葉を認知している人のうち、症状が「徐々に心臓の機能が衰える病気」と回答した人は57%であった。
- ・心不全について、「突然、胸が苦しくなる」「突然、胸が痛くなる」「突然、死んでしまう」といった急性症状をイメージする人が多かった。
- ・「息切れ」「むくみ」といった初期症状で受診を検討する人は少なく、「胸が苦しい・胸が痛い」というような、進行した症状が現れてから初めて受診を検討する人が6割程度であった。
- ・心臓の検査のうち、「BNP濃度測定」の認知率は3%であった。
- ・「検査を受けることで心不全を早期に発見できるとしたら、検査を受けてみたい」と考える人は78%であった。

心不全について

心不全は、国内の急性・慢性心不全診療ガイドラインにおいて、「なんらかの心臓機能障害、すなわち、心臓に器質的および／あるいは機能的異常が生じて心ポンプ機能の代償機転が破綻した結果、呼吸困難・倦怠感や浮腫が出現し、それに伴い運動耐容能が低下する臨床症候群」と定義されています¹。

心不全にはさまざまな分類基準が存在しますが、心不全の病態には左室機能障害が関与していることが多く、診療ガイドラインでも左室収縮能による分類が多用されています¹。左室収縮能による分類では左室駆出率（LVEF）により分類されており、中心的なものはLVEFが低下した心不全（HFrEF、LVEF 40%未満と定義）、およびLVEFの保たれた心不全（HFpEF、LVEF 50%以上と定義）になります。

ノバルティス ファーマ株式会社について

ノバルティス ファーマ株式会社は、スイス・バーゼル市に本拠を置く医薬品のグローバルリーディングカンパニー、ノバルティスの日本法人です。ノバルティスは、より充実したすこやかな毎日のために、これからの医薬品と医療の未来を描いています。ノバルティスは世界で約11万人の社員を擁しており、8億人以上の患者さんに製品が届けられています。ノバルティスに関する詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.novartis.co.jp>

以上

参考文献

1. Okura Y, Ramadan MM, Ohno Y, et al. (2008) Impending epidemic: future projection of heart failure in Japan to the year 2055. *Circ J*; 72(3):489-91.